

2026 年度春季Ⅱ期 大学院薬学研究科入学試験
2025 年度第 2 回 大学院薬学研究科外国語試験 出題意図および解答・解答例

本試験は、薬学研究科の大学院生として求められる以下の能力を評価するために出題した。出題テーマは、医学・薬学分野を中心とし、学術雑誌の論文、症例報告、医療系ニュースサイトの記事から選定した。薬学研究者・専門職として必須となる英語力と専門知識の総合力を評価することを目的としている。

- 専門文献の読解力と理解力：薬学・医学分野の専門的な英語論文や記事を正確に読み解き、その内容を適切に把握する能力
- 論理的な思考力と情報整理能力：複雑な情報を整理し、研究の要点や内容を簡潔かつ正確な日本語または英語で表現する能力
- 薬学基礎知識と専門用語：疾患の概念や薬剤の作用機序などに関する基礎的な薬学知識とそれに付随する専門的な英単語の習得度

【注意】

以下に記載しているものは解答例です。解答例以外にも正解とする場合があります。

2026 年度春季Ⅱ期 大学院薬学研究科入学試験
2025 年度第 2 回 大学院薬学研究科外国語試験 出題意図および解答・解答例

受験番号					
------	--	--	--	--	--

A

 Answer

1	肥満は、2 型糖尿病とその合併症に大きく関与する慢性疾患である。本研究は、経口投与可能な低分子（非ペプチド）GLP-1 受容体作動薬であるオルフォグリプロンを、2 型糖尿病成人患者における肥満治療薬として評価することを目的とした。
2	BMI が 27 kg/m ² 以上かつ糖化ヘモグロビン（HbA1c）が 7～10%の参加者を、1 日 1 回投与群またはフォルグリプロン 6 mg、12 mg、36 mg、プラセボ群に 1:1:1:2 の割合で無作為に割り付けた。
3	ベースラインから 72 週目までの体重変化率の平均値は、6 mg 投与群で-5.1%（推定治療差 [ETD] -2.7; p<0.0001）、12 mg 投与群で-7.0%（-7.8 から-6.2; p<0.0001）、36 mg またはフォルグリプロン投与群では-9.6%（ETD -7.1 ; p<0.0001）であり、プラセボ群では-2.5%であった（プラセボ群との比較で全て p<0.0001）。HbA1c を含む全ての事前指定された体重および心代謝指標は、オルグリプロン投与群で統計学的に有意に改善した。
4	オルフォグリプロン投与時に最も頻度の高かった有害事象は、軽度から中等度の消化器系事象であり、主に用量漸増期に発生した。
5	2 型糖尿病を有する肥満または過体重の成人では、生活習慣改善療法への追加療法として 1 日 1 回のフォルグリプロン投与により、プラセボと比較して統計学的に有意な体重減少が示され、他の GLP-1 受容体作動薬と同等の安全性プロファイルを有した。

2026 年度春季Ⅱ期 大学院薬学研究科入学試験
2025 年度第 2 回 大学院薬学研究科外国語試験 出題意図および解答・解答例

受験番号

B

Answer

問 1

(1) to	(2) into	(3) for	(4) to	(5) against
-----------	-------------	------------	-----------	----------------

問 2

nor

問 3

C

問 4

The primary purpose of vaccines is to prepare the immune system to recognize and fight pathogens in order to prevent infection. (Vaccines aim to prevent infection by preparing the body to fight pathogens)

問 5

mRNA vaccines are considered safe because they do not contain live viruses and therefore cannot cause infection, and because the mRNA does not enter the nucleus or alter human DNA.

問 6

How mRNA vaccines protect the body
Mechanism and safety of mRNA vaccines
Immune responses induced by mRNA vaccines

2026 年度春季Ⅱ期 大学院薬学研究科入学試験
2025 年度第 2 回 大学院薬学研究科外国語試験 出題意図および解答・解答例

受験番号					
------	--	--	--	--	--

C

Answer

問 1

気温上昇により、干ばつ、洪水、山火事など呼吸器系の問題を引き起こす気象現象が増えるにつれ、この数は増加すると予想されている。

問 2

hydrofluoroalkanes

問 3

Studies published Monday in the journal JAMA found that medication inhalers are substantial contributors to planet-warming pollution.

問 4

新たな研究の一つによれば、吸入器による地球温暖化を引き起こす汚染は、たった 1 年間で 50 万台以上の自動車を運転するのに相当し、47 万世帯の電力需要に匹敵するという。

2026 年度春季Ⅱ期 大学院薬学研究科入学試験
2025 年度第 2 回 大学院薬学研究科外国語試験 出題意図および解答・解答例

受験番号					
------	--	--	--	--	--

問 5

「製品は小さいが HFA が温暖化に寄与し、代替吸入器が既により今後も登場するため、排出削減が比較的取り組みやすいから。」

問 6

Q1. 2,800 万人

Q2. 数千倍

Q3. 98%

2025 年度春季Ⅱ期 大学院薬学研究科入学試験
2025 年度第 2 回 大学院薬学研究科外国語試験 出題意図および解答・解答例

受験番号					
------	--	--	--	--	--

D

Answer

問 1

合計 299 人の患者（69.9%）が 52 週目まで upadacitinib または placebo の投与を完了した。

問 2

7 : 3

問 3

女性

問 4

The mean glucocorticoid dose at baseline was 35 mg per day across the groups.

問 5

Placebo 群

問 6

誤り

問 7

Upadacitinib 15mg 群は placebo 群に対して有意に寛解を得られた（46.4 % vs 29.0 %）のに対して、Upadacitinib 7.5mg 群の寛解率は高いものの有意な差は認められなかった（41.1% vs 29.0%）ため。